

**課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業  
評価用研究成果報告書（中間評価）**

**研究テーマ情報**

|                  |                                        |
|------------------|----------------------------------------|
| プログラム名           | 『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』（学術知共創プログラム） |
| 課題               | 将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方                  |
| 研究テーマ名           | コロナ危機から視る政策形成過程における専門家のあり方             |
| 研究代表者所属研究機関・部局・職 | 感染症総合教育研究拠点・特任教授（常勤）                   |
| 研究代表者名           | 大竹 文雄                                  |

**研究費（直接経費）（千円）**

| 令和5年度<br>（2023年度） | 令和6年度<br>（2024年度） | 令和7年度<br>（2025年度） | 令和8年度<br>（2026年度） | 令和9年度<br>（2027年度） | 令和10年度<br>（2028年度） | 合計     |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|--------------------|--------|
| 14,300            | 14,300            | 14,300            | 14,300            | 14,300            | 14,300             | 85,800 |

※令和8（2026）年度以降は内約額。

**研究の概要（0.5 頁以内）**

本報告書「1. 研究の目的・意義」、「2. 研究内容・方法」、「3. 研究の進捗状況・成果及び波及効果」に記述した内容について、その概要を簡潔に 0.5 頁以内で記述すること。

本研究は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）という未曾有の危機に対し、緊急事態における政策形成過程に対して、人文学・社会科学が果たしうる役割を問い直す。当時の感染症対策は人権・社会活動への強い介入を伴い、自然科学だけでは対応困難な価値判断や社会的意思決定の重要性が問われている。本研究では、複雑かつ不確実性に富んだ状況に応答することができる、人文学・社会科学が主体的に牽引する「共創知」の可能性を見出すことを目指す。アプローチとしては、①政策形成過程、②市民への情報発信、③出生率低下の3視点から、最前線の現場担当者や当事者の視座、判断根拠、意思決定の背景に関する素材収集を進めてきた。特に「初期から緊急事態宣言」における、専門家会議メンバー、DMAT、医療従事者、行政担当者、そして政治学・人類学・行政学・公衆衛生学・医学など多分野の研究者による認識の差異や視点の多様性が、貴重な知的資源として蓄積されつつある。これらは対話から成果が生まれるため、それらを記録した Policy Discussion Paper(PDP)としてまとめ公開している。また、リスクコミュニケーション、社会心理学、福祉政策の論点を接続する横断的議論も進展している。具体的には、DMAT と ELSI 研究者の接点や、日本災害医学会での発信など実務と研究を往還する知的基盤の構築を進めている。成果は PDP として継続的に公開し、次世代の人文・社会・自然科学の融合的人材育成にも貢献しつつある。学術と社会を橋渡しするモデル形成の端緒となる実践的知の統合が、本研究の主要な波及成果と位置付けられる。

## 1. 研究の目的・意義（1頁以内）

応募内容提案書に記載した研究の目的・意義について、課題の内容に照らした問題意識、その課題との関連性並びに人文・社会科学に固有の本質的・根源的な問いを追究する意義を明確にした上で、具体的かつ明確に1頁以内で記述すること。

本研究は2020年初頭より世界中で猛威を振るったCOVID-19によるパンデミックを題材に、緊急事態における政策形成過程に対する専門家の関わり方について個別の問題点・課題などの論点を多角的に検証するだけでなく、平時における多様な他者（異分野、政策・行政担当者、各種ステークホルダーなど）とどのような関係構築を図るのかを深く考察することを通して、人文・社会科学における本質的・根源的探究と社会貢献の高度な両立を目指す。

新型コロナウイルス感染症は人々の日常を大きく変え、社会経済に大きな影響を与えた。新型コロナ感染症対策は、人権や社会経済活動に制限を加えるものであり、感染症の専門家だけの専門知では対応できないものであった。メンタルヘルスを含む他の健康面への影響、社会・経済活動や子どもの発達や教育への影響等、様々な側面を同時に考慮すべきだった。どの要素を重視するのかは、価値観に依存する。価値観が異なるもとでの集団的意思決定は、人文社会科学の研究領域である。コロナ危機を経て、日本の出生数は大きく減少し、人口減少が加速することになったのは、新型コロナ対策に、専門知が十分に活かされなかった可能性が挙げられる。そうした背景から、本研究ではさまざまな最前線においてどのような議論と実態であったのかを対談やインタビューを通じて収集し、多角的かつ実践に即した視点から論点とリサーチクエスチョンとして提示した上で、さまざまな専門視座からの考察を企図する。

本研究では、コロナ危機におけるさまざまな事象ごとに具体的なテーマを設定し、多様な専門家・実践者・ステークホルダーと、さまざまな最前線においてどのような議論と実態であったのかについて着目し、学術や専門に囚われすぎない前提の上で、多角的かつ実践に即した視点で議論し分析を重ねることを試みる。また、1つの議題に対して、専門分野を跨いで聞き合う議論の場を設定し、対談やインタビューに対して深みのある検証を実践していく。これらの活動は論文化できるものばかりでないため、DPやPDPのような形式で議論の様子を文字に残しアーカイブしていくことも成果の中心に据えていく。

研究過程で関わる多様なバックグラウンドを有する人々との場と関わりを丁寧にフォローし、将来的な共創的人文社会学のネットワーク基盤の構築を目指す。そして、それらを応用して、人文社会学系学問がより積極的に寄与すべき政策メニューの提示、プログラム形成に結実させることを目指す。他方、これらの実践初期においては、研究者個人のキャリアやエフォートに配慮した研究のあり方も不可欠であり、積極的に研究者個人の文化を再構成する機会を促していく。そして、それらを支える機能として、研究企画機能とプロジェクトマネジメント機能を試行的に運用し、研究者と研究課題設定の間を往来する外部的な機能（場と場づくり）を実践し、人文社会科学に適した支援機能のモデル創出を目指す。

## 2. 研究内容・方法（1頁以内）

応募内容提案書に記載した研究計画について、本プログラムの趣旨及び課題の内容を念頭に置いて、何を、どのような方法を用いて、本報告書提出までにどこまで明らかにしようとしたか、研究期間内にどこまで明らかにしようとしているのか、具体的かつ明確に1頁以内で記述すること。なお、研究の進捗に応じ応募内容提案書から変更した部分があれば理由とともに明記すること。

本研究では、先に実施されてきた、文部科学省委託事業・人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクトにおけるさまざまな実験的な取り組みを踏襲・継承し、共創的人文社会学の1つの具体的な姿を提示するために、コロナ危機を題材に多角的な専門視座かつセクターを跨いだ議論からプログラム形成と研究の課題設定を実践する。その結果として、共創的人文社会学が学問固有の本質的・根源的視座を現実的な課題へ応用し、社会と相互に補完し合う実践的な知の統合を形成するとともに、政策担当者やファウンディングエージェンシーに向けて統合された知から得られる論点やプログラム形成、さらには思考方法等に代表されるプロセスを啓発・橋渡ししていく機能を両立させることを視野に、独創的かつ野心的な研究アプローチを実践していく。

### 【研究手法の計画と実践】

応募提案書では、①素材の収集(論点設定・展開・プログラム形成)、②素材の蓄積(集積・重層)、③素材の利活用(発信・橋渡し)、④異セクターコミュニケーションの体系化と社会との情報交換、を記載した。はじめに、①を遂行するために、コロナ禍の政策形成および各種対策の現場等において最前線に対応にあたった当事者への対談を試みた(一部を以下表に記載)。現場における立場、前提、文化などを加味したナラティブを収集することで、多角的な専門視座による考察素材として貴重なものを収集することができている。また、現場関係者のつながりからより多くの素材収集が実現し、統合的に考察する基盤が醸成されつつある(②)。また、現場の対立的立場なども詳らかになり、単に橋渡しすることでは解決や未来を描くことが難しい事柄も浮き彫りになってきている(③)。そして、普段立場の違う領域で活躍する研究者・実践者の考え方や前提を共有する機会として、ELSI研究者とDMAT、災害医療と人文社会系論点という形で異分野セッション(シンポジウムや学会)を企画実践しPDP等に綴っている(④)。

表・素材収集の対象と成果の一例(敬称略)

| 対象・所属(当時)      | 属性             | 成果                   |
|----------------|----------------|----------------------|
| 齋藤智也・国立感染症研究所  | 感染対策のコーディネーション | PDP、フォーラム            |
| 藤井睦子・大阪府       | 地方自治体の執行部      | PDP                  |
| 大阪府職員          | 地方自治体のコロナ対応の現場 | PDP                  |
| 愛知県職員          | 地方自治体のコロナ対応の現場 | PDP(編集集中)            |
| 名古屋市職員         | 地方自治体のコロナ対応の現場 | PDP(編集集中)            |
| 子ども家庭庁         | 少子化対策とこども福祉政策  | PDP(編集集中)            |
| 阿南英明・神奈川県立病院機構 | 地方自治体のコロナ対応    | 学会セッション、PDP(編集集中)    |
| 近藤久禎・DMAT      | DMATによる災害医療対応  | 学会セッション、PDP(編集集中)    |
| 三村誠二・DMAT      | DMATによる災害医療対応  | 国際シンポジウム、PDP         |
| 山本尚範・名古屋大学附属病院 | 名古屋市における感染対策   | 学会セッション、国際シンポジウム、PDP |
| 岩本康志・東京大学      | 学会の対応(日本経済学会)  | PDP                  |

### 3. 研究の進捗状況・成果及び波及効果（6頁以内）

本報告書提出までの研究の進捗状況・成果及び波及効果を、以下の点を含めながら、具体的かつ明確に6頁以内で記述すること。

- ・本事業の趣旨及び当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか。
- ・具体的な研究成果及びそれらのどのような点が先導的であるか。
- ・未来社会が直面するであろう諸問題に係るどのような応答を研究成果として提示できているか。
- ・人文学・社会科学と自然科学の双方に学術的視野の広がりをもつ人材の育成にどのように寄与しているか。
- ・研究成果をどのように公開・普及させているか。
- ・研究成果及びその普及によって、学術や社会の発展へどのように寄与しているか。
- ・研究成果の発表・発信状況。（主な学術論文、学会発表、著書、産業財産権、招待講演、ホームページ、主催シンポジウム、一般向けのアウトリーチ活動等。ただし本報告書提出までに掲載等が確定しているものに限る。なお e-Rad に入力した分はここに記載する必要はない。）

#### 【本事業の趣旨及び当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか】

本研究は、各論の研究テーマとして、①政策形成過程、②市民への情報発信、③出生率低下の3点を掲げ、それぞれに対して段階的かつ統合的にアプローチしている。これまでの研究推進は、COVID-19のパンデミックを「①初期から緊急事態宣言」「②ワクチンの配布時期」「③オミクロン株以降」の3期に分類し、最前線の現場担当者や当事者の視座、判断根拠、意思決定の背景に関する素材収集と分析を進めてきた。特に「初期から緊急事態宣言」のフェーズでは、専門家会議メンバー、DMAT、医療従事者、行政担当者、そして政治学・人類学・行政学・公衆衛生学・医学など多分野の研究者による認識の差異や視点の多様性が、貴重な知的資源として蓄積されつつある。異なる分野の研究者による対話から成果が生まれるため、主に対談・シンポジウムを記録した Policy Discussion Paper(PDP)としてまとめ公開している。一方、「市民への情報発信」および「出生率低下」に関するテーマについては、リスクコミュニケーション、社会心理学、行政実務との連携を通じた論点の探索を継続中であり、今後の知見の深化が期待される。これら3つのテーマは、相互に交差し影響を及ぼし合う領域的重なりを有しており、複眼的な視座や分析フレームが漸次構築されつつある。そのため、今後はこれらの成果を基盤として、共創的な考察や統合的議論の展開に向けた知的素地が形成されつつある段階にあるといえる。

#### 【未来社会が直面するであろう諸問題に係るどのような応答を研究成果として提示できているか】

本プロジェクトでは、将来の災害対応体制の構築に向けて、オールハザード・アプローチに基づく防災庁の創設構想や、危機管理統括庁の動向に呼応する形で、対談形式等による議論をPDPとして提示・蓄積する活動を継続している。特にCOVID-19の対応に関わった専門家による検証作業から将来の危機発生時の専門家が関わる際の参考になる学術的な議論を構築している。これにより、政策形成と研究知の接続を図る枠組みの試行を進めている。また、人口減少社会における複合的課題への対応として、こども家庭庁の実務現場における関係者との意見交換やインタビュー調査を通じ、いじめや自殺予防といった課題に焦点を当てた政策提言の設計を進行中である。これらの取り組みは、学術界内に閉じるのではなく、実務現場・行政セクターとの継続的かつ往還的なコミュニケーションを通じて、社会課題に応答しうる基盤的な知の構築を目指す萌芽的实践として位置づけられる。

【人文学・社会科学と自然科学の双方に学術的視野の広がりをもつ人材の育成にどのように寄与しているか】

本プロジェクトでは、COVID-19 に関わった人文社会科学だけでなく自然科学の専門家を含めた研究者が、専門家として現在進行形の災害にどう関わるかを議論している。この作業を通じて、研究者は、自分の専門における暗黙的な価値観を理解し、他分野を含めた学術的視野をもつようになってきている。また、災害医療の現場に従事する救急医や DMAT（災害派遣医療チーム）と、ELSI 研究者との意見交換の場を設計・運営し、異分野間の対話と協働の促進を図った。加えて、医学領域における専門的な学術集会である日本災害医学会において、人文学・社会科学の視点から提起されている論点を紹介するセッションを企画・実践し、分野横断的な議論の機会を創出した。さらに、これらの活動を PDP 形式で記録・体系化することで、単なる記録にとどまらず、次世代の研究者・実践者の育成に資する教育資源として活用できるよう整備している。

【研究成果をどのように公開・普及させているか】

研究成果については、大阪大学 CiDER のホームページ (<https://www.cider.osaka-u.ac.jp/>) (<https://www.cider.osaka-u.ac.jp/pdp/>) に掲載するほか、独自のホームページ (<https://sites.google.com/cider.osaka-u.ac.jp/jsps-gakujututi>) も公開している。

【研究成果及びその普及によって、学術や社会の発展へどのように寄与しているか】

近年の学術研究が抱える本質的な課題の一つとして、異分野間の交流機会の設計と持続的運用の困難さが指摘されている。こうした中で、本プロジェクトでは、異なる学問領域間の接点を意図的に設計することで、共創知や総合知の形成に資する基盤の構築に寄与していると評価できる。特に、COVID-19 対策が中長期的にどのような影響を日本の社会経済に影響を与えたか、また、これからも影響を与える可能性について、ある程度一致した視点を提供することができた。さらに、価値観の違いを重視する人文社会科学系では政策に対する学会レベルの対応が難しい中で、COVID-19 対策に学会レベルで取り組んだ日本経済学会の事例を本プロジェクトで詳しく紹介することで、他の人文社会科学系が今後、そのような取り組みをする際の参考事例となっている。とりわけ、臨床医と ELSI といった、平時には相互に距離のある分野間において、研究者主導のボトムアップ型で交流の機会を設計している点は、今後の学術横断的な連携のあり方にとって重要な経験的知見となる。さらに、単なる対面的・人的交流にとどまらず、リサーチクエストや論点の共有・交換といった知的インターフェースの設計を通じて、プロジェクト単位の共創に閉じない、総合知の形成や統合的議論のあり方を模索している点も注目に値する。このような設計は、研究者に対して過度な時間的・組織的負担を課すことなく、柔軟かつ持続可能な分野間連携のコンセプトモデルとなりうる可能性を示している。

【研究成果の発表・発信状況】

<場づくり>

◆プロジェクト会議 3 回、国際 WS 4 件、カンファレンス 1 回、シンポジウム 1 回、セミナー 1 回

| No. | 日付        | 名称                  | 場所          | 形式     | 参加者    |
|-----|-----------|---------------------|-------------|--------|--------|
| 1   | 2023.9.18 | 第 1 回・キックオフプロジェクト会議 | 大阪大学中之島センター | ハイブリッド | 研究者 16 |

|    |                |                                                                             |                  |        |                  |
|----|----------------|-----------------------------------------------------------------------------|------------------|--------|------------------|
| 2  | 2024.2.2       | 第2回プロジェクト会議                                                                 | AP 東京丸の内         | ハイブリッド | 研究者 16           |
| 3  | 2024.2.3       | CiDER シンポジウム【共催】                                                            | 東京よみうり大手町ホール大ホール | ハイブリッド | 現地 257・オンライン 924 |
| 4  | 2024.2.22      | Kyoto Workshop on the ethical issues at the end of life in Korea and Japan① | 京都大学吉田泉殿         | ハイブリッド |                  |
| 5  | 2024.2.28      | Kyoto Workshop on the ethical issues at the end of life in Korea and Japan② | 京都大学高井ホール        | ハイブリッド |                  |
| 6  | 2024.3.12      | Kyoto Workshop on the Clinical Ethics Consultation in Korea and Japan       | 京都大学文学研究科        | ハイブリッド |                  |
| 7  | 2024.3.4       | 第1回カンファレンス                                                                  | AP 大阪梅田東         | ハイブリッド | 研究者 20、実務者 1     |
| 8  | 2025.3.6       | 第30回日本災害医学会総会・学術総会 記念大会 ランチョンセミナー3【企画・講演】                                   | ポートメッセなごや        | 現地     | 現地参加者 350名以上     |
| 9  | 2025.3.13 ~ 15 | PANDEMIC ELSI INTERNATIONAL CONFERENCE【共催】                                  | 京都大学楽友会館         | ハイブリッド |                  |
| 10 | 2025.3.27      | 第3回プロジェクト会議                                                                 | AP 東京丸の内         |        | 現地 10、オンライン 16   |

## <発表・発信>

### ◆著作物 6 件

| No. | 日付         | タイトル                                                                                   | 著者              | 出版社/その他        |
|-----|------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------|
| 1   | 2023.8     | 『予防の倫理学』<br>(四六判・340 頁)                                                                | 児玉聡             | ミネルヴァ書房        |
| 2   | 2023.9.8   | "COVID risk evaluation now up to individuals", The Japan News, Insights into the World | Fumio Ohtake    | The Japan News |
| 3   | 2023.9.8   | 「新型コロナ リスク判断 価値観次第」『読売新聞：地球を読む』                                                        | 大竹文雄            | 読売新聞           |
| 4   | 2023.10    | 「コロナ禍でのがん闘病から見た社会の病理」                                                                  | 大竹文雄, 笠井信輔      | 中央公論           |
| 5   | 2024.11.22 | 「感染症対策における日本の経済学(者)」『アステイオン』101,26-42                                                  | 大竹文雄            | CCC メディアハウス    |
| 6   | 2025.1.15  | 『行動経済学で「未知のワクチン」に向き合う』                                                                 | 佐々木周作・大竹文雄・齋藤智也 | 日本評論社          |

◆論文(査読あり)7 件

< 2 0 2 5 >

◇Perceptions and responses to COVID-19 through wastewater surveillance information and online search behavior: A randomized controlled trial

International Journal of Disaster Risk Reduction, Volume 118, 15 February 2025, 105224

<https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2025.105224>

Michio Murakami, Shuhei Nomura, Hiroki Ando, Masaaki Kitajima

◇Effects of political treatments during the COVID-19 pandemic on infection-prevention behavior and risk perception: a panel data analysis of Japan

International Journal of Disaster Risk Reduction, Volume 117, 1 February 2025, 105201

<https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2025.105201>

Yamagata, M., Murakami M., Miura A.

< 2 0 2 4 >

◇Three years of COVID-19-related school restrictions and mental health of children and adolescents in Japan.

Sci Rep. 2024 Jul 19;14(1):16707.

doi: 10.1038/s41598-024-67138-y.

Reo Takaku, Naohisa Syobako, Taisuke Nakata

◇Who trusts in scientific research? Cross-national surveys of Japan, the United Kingdom, and the United States

JCOM 23(08), A03.

<https://doi.org/10.22323/2.23080203>

Miura, A., Yamagata, M., Higashijima, J., Kobayashi, T. and Nakamura, M.

◇Behind the Mask: Analyzing the Dual Influence of Social Norms on Pandemic Behavior in Japan.

Japanese Psychological Research.

<https://doi.org/10.1111/jpr.12520> (Early View)

Miura,A., Murayama, A., & Kitamura, H.

< 2 0 2 3 >

◇Exploration of factors associated with mask-wearing and hand disinfection in Japan after the coronavirus disease outbreak: A longitudinal study

International Journal of Disaster Risk Reduction, Volume 98, November 2023, 104107

<https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2023.104107>

Michio Murakami, Mei Yamagata, Asako Miura

◇‘Ethical Challenges of the COVID-19 Pandemic: A Japanese Perspective’, Journal of Medical Internet Research, 25 (2023), e44820 (招待論文)

Kodama Satoshi

## <発表・発信>

### ◆DP/PDP, 論文(査読なし) 9 報

| No. | 日付(新着順)   | 著者                            | タイトル                                                     | 備考                                                                                |
|-----|-----------|-------------------------------|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 2025.4.23 | 小出直史, 三村誠二, 山本尚範, 鍾宜錚, 児玉聡    | 災害対応における最前線の視点と ELSI 研究の交わりを描く                           | RInCA「パンデミックの ELSI アーカイブ化による感染症にレジリエントな社会構築」×JSPS「コロナ危機から視る政策形成過程における専門家のあり方」連携企画 |
| 2   | 2025.2.28 | 小出直史, 黒河昭雄, 山縣然太郎, 森田朗, 大竹文雄  | コロナ禍における科学的助言の態様と人文学・社会科学の貢献<br>テーマ 2: 人文・社会科学の貢献可能性     | RISTEX「政策のための科学」×JSPS「コロナ危機から視る政策形成過程における専門家のあり方」連携企画                             |
| 3   | 2025.1.22 | 小出直史, 黒河昭雄, 山縣然太郎, 小林傳司, 大竹文雄 | コロナ禍における科学的助言の態様と人文学・社会科学の貢献<br>テーマ 1: コロナ禍をめぐる専門家の貢献と責任 | RISTEX「政策のための科学」×JSPS「コロナ危機から視る政策形成過程における専門家のあり方」連携企画                             |
| 4   | 2025.1.6  | 岩本康志, 磯野真穂, 待鳥聡, 大竹文雄         | 新型コロナ対策での経済学と人文・社会科学の役割                                  | 『経済セミナー』(2025 年 6・7 月号に要約版が掲載)                                                    |
| 5   | 2024.12.2 | 北島正章, 元岡大祐, 小出直史, 村上道夫        | 感染症対策における最新技術動向ー感染状況の把握と下水サーベイランスの現在地                    |                                                                                   |
| 6   | 2024.9.18 | 藤井睦子, 小出直史                    | 新型コロナウイルス感染症による危機対応における初動機の振り返り                          |                                                                                   |
| 7   | 2024.2.14 | 児玉聡                           | 予防の倫理学会評会ー応答                                             | 『豊田工業大学ディスカッション・ペーパー』31、2024, 42-54                                               |
| 8   | 2024.2.2  | 岩本康志, 齋藤智也, 大竹文雄              | コロナ危機における法とそれらの運用                                        |                                                                                   |
| 9   | 2024.1.15 | 岩本康志, 大竹文雄                    | コロナ危機における学会の対応                                           |                                                                                   |

\* 掲載先: <https://www.cider.osaka-u.ac.jp/pdp/> (大阪大学感染症総合研究教育拠点 HP 内)

### ◆口頭発表, 7 件

- ・ 2025.3.28 第 6 回 行動経済学で「未来のワクチン」に向き合う, ナレッジキャピタル (SpringX 超学校) ×大阪大学 CiDER 「エビデンスと共に考える「いのち」と「くらし」を豊かにする講座 season2, 佐々木周作, 大竹文雄  
(<https://kc-i.jp/activity/chogakko/cider2024/detail20250328.php>)
- ・ 2025.3.6 来るべき大災害への備えは万全か～防災庁設置に向けて、災害医療の貢献を考える, 第 30 回日本災害医学会総会・学術総会 記念大会 ランチョンセミナー 3, 小出直史, 山本尚範, 近藤久禎, 阿南英明  
([https://med.shionogi.co.jp/seminar/society/2025/seminer\\_20250306.html](https://med.shionogi.co.jp/seminar/society/2025/seminer_20250306.html))



- ・ 2024.10.26 「臨床倫理の基本原則」「医療資源の配分」、集中治療と臨床倫理、一般社団法人日本集中治療医学会、於オンライン、児玉聡
- ・ 2024.10.20 「新型コロナ対策での経済学と人文・社会科学の役割」、日本経済学会 2024 年度秋季大会 特別セッション、岩本康志、磯野真穂、待鳥聡、大竹文雄  
(<https://confit.atlas.jp/guide/event-img/jeaf2024/2R101-01-01/public/pdf?type=in>)
- ・ 2023.9.23 「医療資源の配分」、集中治療と臨床倫理、一般社団法人日本集中治療医学会、於オンライン、児玉聡
- ・ 2024.9.17 第 3 回 下水疫学 大阪・関西万博に向けた最先端の知見、ナレッジキャピタル (SpringX 超学校) ×大阪大学 CiDER 「エビデンスと共に考える「いのち」と「くらし」を豊かに する講座 season2, 北島正章, 元岡大祐, 村上道夫  
(<https://kc-i.jp/activity/chogakko/cider2024/detail20240917.php>)
- ・ 2024.7.26 第 2 回ショート動画にナッジを活かす, ナレッジキャピタル (SpringX 超学校) ×大阪大学 CiDER 「エビデンスと共に考える「いのち」と「くらし」を豊かに する講座 season2, 大竹文雄, 佐々木周作  
(<https://kc-i.jp/activity/chogakko/cider2024/detail20240726.php>)

#### ◆その他、講演・研修会・委員など 6 件

- ① 児玉聡・「臨床倫理の基本原則」「医療資源の配分」、集中治療と臨床倫理、一般社団法人日本集中治療医学会、於オンライン、2024 年 10 月 26 日。
- ② 児玉聡・「医療資源の配分」、集中治療と臨床倫理、一般社団法人日本集中治療医学会、於オンライン、2023 年 9 月 23 日。
- ③ 井上裕介・匿名化された感染症情報の提供に係る検討委員会委員 (23 年 10 月～24 年 3 月末)
- ④ 井上裕介・感染症法に基づく入院勧告通知等の電子的通知実施に向けた調査事業に係る技術審査委員長 (24 年 10 月)
- ⑤ 小出直史「来るべき大災害への備えは万全か」、第 30 回日本災害医学会総会・学術総会 記念大会 ランチョンセミナー (座長・ファシリテーター)、2025 年 3 月 6 日
- ⑥ 児玉聡、救急医療の現場における医療関係職種の在り方に関する検討会 WG 座長(厚労省 2023-)

#### 4. 今後の研究の推進方策（4 頁以内）

研究目的を達成するための今後の本研究テーマの推進方策について、令和7（2025）年度～令和10（2028）年度の年度別に分けて、具体的かつ明確に4 頁以内で記述すること。

|                                                         | 令和7（2025）年度 | 令和8（2026）年度 | 令和9（2027）年度 | 令和10（2028）年度 |
|---------------------------------------------------------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| ① 研究体制と推進機能の基盤構築と運用                                     | →           |             |             |              |
| ② 研究推進<br>A:政策形成過程グループ<br>B:市民への情報発信グループ<br>C:出生率低下グループ | →           |             |             |              |
| ③ 成果発表の企画調整とプログラム形成の可視化                                 | →           |             |             |              |
| ④ ネットワーク形成の可視化                                          | →           |             |             |              |
| ⑤ パブリックリレーションズ(社会との情報交換)                                | ●2025.6.4   | ●未定         | ●未定         | ●未定          |

●シンポジウム開催

#### 【令和7（2025）年度】

注）①～⑤は研究計画書に準ずる

①研究体制と推進機能の基盤構築と運用

②研究推進（A:政策形成過程グループ、B:市民への情報発信グループ、C:出生率低下グループ）

#### <推進方策>

本研究プロジェクトでは、研究開始当初より継続的に実施してきた、COVID-19危機下における政策形成を中心とした学術研究者および各現場（政府、自治体、医療・福祉機関等）へのインタビューおよびヒアリングを通じて得られた素材や論点を基礎とし、分担者・参画者に限らず多様な視座・分析枠組みを横断的に接続する形で、統合的な考察を導く企画の実践を進めている。

具体的には、令和6年度に試行的に実施した、災害時医療の最前線に立つ医師とELSI（倫理・法・社会的課題）研究者との交流機会の設計や、日本災害医学会における企画セッションを通じた、救急医・病院関係者と人文学・社会科学の論点との共有の試みなどを企画調整や運用の基本的素地とし、学術分野と実務現場との接点について創出を図る展開を実施する。

こうした取り組みを発展させ、研究メンバーが通常は接点を持ちにくい異分野や実務家との直接的（フォーラムやワークショップなど）・間接的（論点・リサーチクエスションの文字ベースの交換）な交流機会の基盤を事例の積み上げとともにより一層強化していく。また、先行して展開されてきた「政策形成過程」グループでの知見や論点を受けて、「市民への情報発信」および「出生率低下」グループの活動の推進と議論の深化について接続的展開を推進していく。さらに、これら各グループの議論が有機的に統合・派生することを可能にするための研究支援機能の整備・強化にも注力し、プロジェクト全体としての知の循環と横断的知見の形成を目指す。

③成果発表の企画調整とプログラム形成の可視化、④ネットワーク形成の可視化

#### <推進方策>

本プロジェクトでは、これまでCOVID-19危機下における多様な現場やステークホルダーに対して実施してきたインタビューおよびヒアリング調査を通じて、貴重なナラティブ素材を蓄積してきた。これらの記録は、単体での論文成果への即時的な接続が困難な性質を有するため、DP/PDPの形式で各現場からの景色や視点に関するナラティブをできる限りそのままの形で文書化・アーカイブする活動を継続的に展開している。

今後は、蓄積されたナラティブに対して横断的な分析軸（横串）を導入し、分野横断的・統合的な議論を構築することで、素材の知的展開を図るとともに、学術的・社会的成果としての発信を企図していく。

そのため、JSPS（日本学術振興会）における関連課題や、COVID-19を含む有事・緊急事態に関する国内外の諸研究、さらに異分野連携型の研究課題群と積極的・有機的な連携を図りながら、根源的かつ本質的な問いに漸近すべく知の創出を推進していく。令和6年度には、他のプロジェクトとの共同企画や医学系学会における共催セッションなどを通じて試行的運用を実施し、分野横断的な対話の深化や当事者間の多様な気づきが得られるなど、参加者双方にとって有意義な成果が得られた。今後は、こうした実践を踏まえつつ、運用面の課題整理を前提に、本プロジェクト独自の学術的成果に接続するためのさらなる企画設計を推進していく。

#### ⑤パブリックリレーションズ(社会との情報交換)

##### <推進方策>

本研究では、ホームページを通じてDiscussion Paper（DP）およびPolicy Discussion Paper（PDP）を継続的に発信し、研究過程における論点や仮説の可視化を図るとともに、シンポジウムや公開フォーラムを通じて、専門家・実務者・市民を交えた双方向的な情報交換の機会を創出する。これにより、社会的関心の高い政策課題に対して、研究成果を広く共有・循環させ、学術知と公共性の接点を生み出すパブリックリレーションズを実践する。

#### 【令和8（2026）年度】

- ①研究体制と推進機能の基盤構築と運用
- ②研究推進（A:政策形成過程グループ、B:市民への情報発信グループ、C:出生率低下グループ）
- ③成果発表の企画調整とプログラム形成の可視化
- ④ネットワーク形成の可視化

##### <推進方策>

令和8年度においては、これまでに収集・記録してきたDP/PDP形式によるナラティブを、あらためて横断的に再整理し、プロジェクトの柱となる三つの主題——すなわち政策形成過程、市民への情報発信、出生率低下——を相互に接続する形で、分野横断的な分析の本格的展開に着手する。これにより、個別テーマに閉じることなく、現代社会が抱える構造的な課題に対して、より統合的かつ実践的な知的アプローチを展開するための基盤を強化する。

とりわけ、令和6年度に試行的に実施した、災害時医療の最前線に立つ医師とELSI（倫理・法・社会的課題）研究者との対話を中心とした交流企画を出発点とし、異分野の研究者および実務者との継続的な対話の枠組みを制度化していく。具体的には、定例的なラウンドテーブル、分野横断型のセッション、対話型ワークショップなどを組み合わせることで、共創的かつ俯瞰的な知の再構成を推進し、研究知と実践知の有機的な接続を図る。

また、こうしたナラティブや対話から得られた論点を素材として、研究の中間成果を社会に向けて可視化し、長期的に参照可能な知的資源とすることを目的に、第1弾となる成果書籍（論集）の編纂・出版を企図する。本書籍には、インタビュー記録や現場観察をもとにし

た記述、ナラティブ分析の枠組み、各分野を横断する論点整理などを収録し、学术界のみならず医療・行政・教育・福祉等の実務現場への知の波及を意図した内容構成を企図する。

⑤パブリックリレーションズ(社会との情報交換)

<推進方策>

本研究では、ホームページを通じて Discussion Paper (DP) および Policy Discussion Paper (PDP) を継続的に発信し、研究過程における論点や仮説の可視化を図るとともに、シンポジウムや公開フォーラムを通じて、専門家・実務者・市民を交えた双方向的な情報交換の機会を創出する。これにより、社会的関心の高い政策課題に対して、研究成果を広く共有・循環させ、学術知と公共性の接点を生み出すパブリックリレーションズを実践する。

【令和 9 (2027) 年度】

①研究体制と推進機能の基盤構築と運用

②研究推進 (A:政策形成過程グループ、B:市民への情報発信グループ、C:出生率低下グループ)

③成果発表の企画調整とプログラム形成の可視化

④ネットワーク形成の可視化

<推進方策>

再来年度に構築した分野横断的連携基盤をもとに、各テーマの統合的分析と、社会実装に資する応用的提案の形成へと研究を発展させる。政策形成過程グループにおいては、防災庁や危機管理統括庁との綿密な意見交換機会を図り危機対応に関する提言の精度と確度の向上をはかる。そして双方向のコミュニケーション機会を平常化させるような文化醸成を企図する。

また、緊急事態法制政策形成過程グループで蓄積された知見を踏まえ、出生率低下に関連する社会的背景や制度的要因をめぐる議論を深化させるとともに、令和6年度から継続している家庭庁などの政策担当者との協働を通じて、具体的に、いじめ、自殺予防、家庭支援を含む複合的な福祉政策課題への統合的アプローチを探る。

同時に、市民への情報発信をテーマとしたグループでは、リスクコミュニケーションや社会心理学的アプローチを踏まえた実証的分析を進め、パンデミック期の情報政策と市民行動の関係性に関する知見の整理と発信を行う。また、学会セッションや公開シンポジウムなどを通じて、多分野間・研究者と実務家間の中間成果の共有を進める。

さらに、プロジェクト全体の知的生産を支える研究支援機能—PDPアーカイブの高度化、論点共有のためのワークフロー整備、共同編集体制の確立—を強化し、グループ間の連携と成果の可視化を持続的に支える基盤を整える。

⑤パブリックリレーションズ(社会との情報交換)

<推進方策>

本研究では、ホームページを通じて Discussion Paper (DP) および Policy Discussion Paper (PDP) を継続的に発信し、研究過程における論点や仮説の可視化を図るとともに、シンポジウムや公開フォーラムを通じて、専門家・実務者・市民を交えた双方向的な情報交換の機会を創出する。これにより、社会的関心の高い政策課題に対して、研究成果を広く共有・循環させ、学術知と公共性の接点を生み出すパブリックリレーションズを実践する。

## 【令和 10（2028）年度】

- ①研究体制と推進機能の基盤構築と運用
- ②研究推進（A:政策形成過程グループ、B:市民への情報発信グループ、C:出生率低下グループ）
- ③成果発表の企画調整とプログラム形成の可視化
- ④ネットワーク形成の可視化

### <推進方策>

最終年度には、本研究プロジェクトのこれまでの成果を総合的に統括し、各グループが展開してきた知見を横断的かつ有機的に統合することにより、プロジェクト全体としての知の体系化を図る。政策形成、市民への情報発信、出生率低下といった三つの主要テーマは、それぞれ独立した課題として進められてきたが、社会的現実においては相互に密接な関連性を有しており、それらを分野横断的に接続することで、学術的知見と社会的実践を媒介する持続可能な知的基盤の構築を目指す。

こうした構想の集大成として、最終年度には第2弾となる成果書籍の編纂・出版を企図する。この書籍では、プロジェクト全体の視座を提示する総論を中心メンバーが共同執筆するとともに、各グループによる深化した論考を各論として収録する。内容は、政策決定過程の構造的特徴、パンデミック下におけるリスクコミュニケーションの分析、少子化と社会構造の関係など、実証と理論の両面から論じるものであり、加えて、行政や医療・福祉現場との接続を意識した政策提言や社会実装に向けた視点も盛り込む。この書籍は、単なる研究成果の集約にとどまらず、今後の学術・社会連携の基盤となる「公共的知」の形成を目指すものである。

さらに、出版と連動して、報告会や政策提言フォーラムを開催する。これらのイベントでは、研究者のみならず、自治体、医療機関、教育・福祉関係者、市民団体など多様な実務者を招き、成果の共有と意見交換を通じた双方向的な知識循環の場を設計する。この対話の中で得られた知見は、プロジェクトの成果に再統合し、今後の展開に反映させる。

また、研究過程で蓄積されたDP/PDPを整理・再構成し、体系的なアーカイブとして整備・公開することで、後継研究や教育活動への活用を可能とする。加えて、これまで試行してきたPDPの執筆・査読・編集に関する運用体制をモデル化し、「知の共創」を支える仕組みとして継続的に機能させることを目指す。

こうした取り組みを通じて、最終年度においては、学際的知見と実践的課題が結びついた「知の循環モデル」の完成を図るとともに、次世代の研究や社会連携へとつながる持続可能な研究基盤の確立を目指す。

- ⑤パブリックリレーションズ(社会との情報交換)

### <推進方策>

本研究では、ホームページを通じて Discussion Paper (DP) および Policy Discussion Paper (PDP) を継続的に発信し、研究過程における論点や仮説の可視化を図るとともに、シンポジウムや公開フォーラムを通じて、専門家・実務者・市民を交えた双方向的な情報交換の機会を創出する。これにより、社会的関心の高い政策課題に対して、研究成果を広く共有・循環させ、学術知と公共性の接点を生み出すパブリックリレーションズを実践する。

## 5-1. 研究プロジェクトチームの体制（必要頁）

本報告書提出時点の研究プロジェクトチームの体制について記述すること。

### 総括・マネジメント

| 研究代表者等の別          | 氏名    | 所属研究機関・部局・職                | 役割分担                                                  |
|-------------------|-------|----------------------------|-------------------------------------------------------|
| 研究代表者<br>(業務責任者)  | 大竹 文雄 | 大阪大学・感染症総合教育研究拠点・特任教授(常勤)  | 研究総括<br>①②③④⑤<br>②-B, -C: グループリーダー*<br>*グループリーダーは順次移管 |
| 研究分担者<br>(副業務責任者) | 小出 直史 | 大阪大学・感染症総合教育研究拠点・特任准教授(常勤) | 研究総括補佐・マネジメント<br>①②③④⑤: 研究企画・PM                       |
| 研究参画者             | 田口 茂  | 北海道大学大学院文学研究科・教授           | 企画アドバイス<br>①②③④⑤: 指導助言                                |

### 研究グループ名：政策形成過程グループ(②-A)

| 研究代表者等の別 | 氏名    | 所属研究機関・部局・職                  | 役割分担          |
|----------|-------|------------------------------|---------------|
| 研究分担者    | 高久 玲音 | 一橋大学大学院経済学研究科・教授             | ②-A: グループリーダー |
| 研究分担者    | 仲田 泰祐 | 東京大学大学院経済学研究科・准教授            | ②-A, -B, -C   |
| 研究分担者    | 待鳥 聡史 | 京都大学大公共政策大学院・教授              | ②-A           |
| 研究分担者    | 児玉 聡  | 京都大学大学院文学研究科・教授              | ②-A           |
| 研究分担者    | 岩本 康志 | 東京大学大学院経済学研究科・教授             | ②-A           |
| 研究分担者    | 井上 裕介 | 京都大学経済研究所・特定准教授              | ②-A           |
| 研究分担者    | 村上 道夫 | 大阪大学感染症総合教育研究拠点・教授           | ②-A           |
| 研究分担者    | 黒河 昭雄 | 神奈川県立保健福祉大学ヘルスインノベーション研究科・講師 | ②-A           |

|       |       |                                |                                                                                     |
|-------|-------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 研究参画者 | 忽那 賢志 | 大阪大学大学院医学系<br>研究科・教授           | ②-A:医療機関における緊急事<br>態対応およびICT対応の現場<br>に関する情報、資料提供。感<br>染症研究者としてのコロナ危<br>機対応に関する情報提供。 |
| 研究参画者 | 藤井 睦子 | 大阪教育大学 副学<br>長・健康安全系教授         | ②-A:コロナ危機における自治<br>体の現場対応に関する情報提<br>供等。                                             |
| 研究参画者 | 室井 延之 | 神戸市立医療センター<br>中央市民病院・薬剤部<br>長  | ②-A:医療機関における緊急事<br>態対応およびICT対応の現場<br>に関する情報、資料提供                                    |
| 研究参画者 | 柴谷 直樹 | 神戸市立医療センター<br>中央市民病院・薬剤部<br>主査 | ②-A:医療機関における緊急事<br>態対応およびICT対応の現場<br>に関する情報、資料提供                                    |

研究グループ名：市民に向けた情報発信グループ(②-B)

| 研究代表者等<br>の別     | 氏名    | 所属研究機関・<br>部局・職                   | 役割分担                                                  |
|------------------|-------|-----------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 研究代表者<br>(業務責任者) | 大竹 文雄 | 大阪大学・感染症総合<br>教育研究拠点・特任教<br>授(常勤) | 研究総括<br>①②③④⑤<br>②-B, -C: グループリーダー*<br>*グループリーダーは順次移管 |
| 研究分担者            | 三浦 麻子 | 大阪大学大学院人間科<br>学研究科・教授             | ②-B                                                   |
| 研究分担者            | 仲田 泰祐 | 東京大学大学院経済学<br>研究科・准教授             | ②-A, -B, -C                                           |
| 研究分担者            | 磯野 真穂 | 東京工業大学リベラル<br>アーツ研究教育院・教<br>授     | ②-B                                                   |
| 研究参画者            | 明和 政子 | 京都大学大学院教育学<br>研究科・教授              | ②-B, -C                                               |
| 研究参画者            | 武見 綾子 | 東京大学先端科学技術<br>研究センター・准教授          | ②-B, -C                                               |

◆出生率低下グループ(②-C)

| 研究代表者等の別         | 氏名     | 所属研究機関・部局・職               | 役割分担                                                  |
|------------------|--------|---------------------------|-------------------------------------------------------|
| 研究代表者<br>(業務責任者) | 大竹 文雄  | 大阪大学・感染症総合教育研究拠点・特任教授(常勤) | 研究総括<br>①②③④⑤<br>②-B, -C: グループリーダー*<br>*グループリーダーは順次移管 |
| 研究分担者            | 小原 美紀  | 大阪大学大学院国際公共政策研究科・教授       | ②-C                                                   |
| 研究分担者            | 仲田 泰祐  | 東京大学大学院経済学研究科・准教授         | ②-A, -B, -C                                           |
| 研究参画者            | 明和 政子  | 京都大学大学院教育学研究科・教授          | ②-B, -C                                               |
| 研究参画者            | 千葉 安佐子 | 東京財団政策研究所・研究員             | ②-C                                                   |
| 研究参画者            | 武見 綾子  | 東京大学先端科学技術研究センター・准教授      | ②-B, -C                                               |



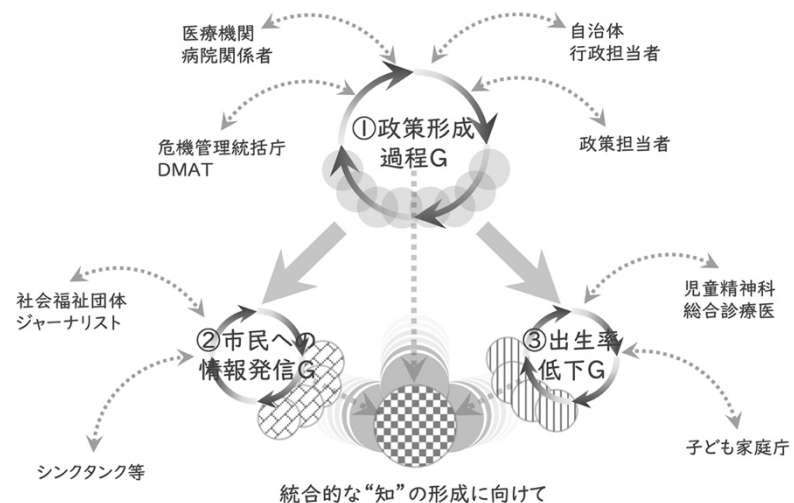
## 5-2. 研究プロジェクトチームの役割と連携（1頁以内）

研究プロジェクトチームにおける個々の研究者や各研究グループ（研究グループを設定している場合）の役割や連携について、図表などを用いて具体的かつ明確に1頁以内で記述すること。

本研究は、各論の研究テーマとして、①政策形成過程、②市民への情報発信、③出生率低下の3点を掲げ、それぞれに対して段階的かつ統合的にアプローチしている。

### <①政策形成過程>

本プロジェクトの根幹を担う研究グループは、これまでCOVID-19 パンデミックに関する基盤的知見の構築に重点的に取り組んできた。グループの主要な役割は、パンデミックの全体像を俯瞰可能にするための素材と視点を学術的に提供することにある。特に、研究代表者である大竹を中心として、「初期から緊急事態宣



言」フェーズに着目し、最も混乱が大きかった時期における政策形成過程のレビューを進めている。この過程では、最前線に立つ現場担当者や意思決定関係者へのインタビューや対談を通じて、彼らの視座・判断根拠・背景文脈に関するナラティブの収集を実施してきた。また、これらの調査・記録活動の具体的な企画運営については、大竹および分担者の小出が中心となり、各メンバーの学術的関心や研究資源の状況に応じた環境的調整を行いながら進行している。収集・生成された議論や知見は、PDP（Policy Discussion Paper）で整理・公開することで、次世代への知的継承や社会への発信にも資する形でプロジェクトを推進している。

### <②市民への情報発信、③出生率低下>

②のテーマについては、分担者・三浦を中心に、社会心理学的アプローチを軸とした研究推進を展開している。一方、③に関しては、大竹および小出を中心に、人口問題を起点としながら少子化に関する調査や、こども家庭庁との意見交換を通じて、自殺予防・対策や社会福祉政策に関する論点の深化を進めている。これら②および③の研究は、個別の学術的分析を進めるのみならず、本研究プロジェクトの基盤である①「政策形成過程」で得られた論点や知見を接続・発展させる形で構想されている。大竹・小出が中心となり、分担者・参画研究者に加え、将来的な共同研究者や連携先との協働機会を拡充しながら、②・③の領域において分岐・発展的に取り組むテーマ設計を進めている。コーディネーションの結果として、以下のような論点が今後の展開として推進されている。「新型インフルエンザ等対策行動計画の自治体実装上の課題」、「市民への情報発信とリスクコミュニケーションの設計と効果検証」、「コロナ禍を契機として顕在化した総合診療医および児童精神科領域における制度的・人材的課題」、「自殺予防・対策の観点からみた現代日本の社会福祉政策の構造的課題と制度設計の展望」、このように、政策形成過程と個別課題を接続する学際的かつ展開的な設計によって、本プロジェクトは多層的かつ実践的な知の形成を目指している。

## 6. 研究費の使用状況（1 頁以内）

委託費年次支出報告書等に沿って、各年度の研究費（直接経費）及びその費目ごとの主な使途と額について、具体的かつ明確に 1 頁以内で記述すること。

(円)

|                   | 令和 5 年度（2023 年度）                                                                                                    | 令和 6 年度（2024 年度）                                                                                |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研究費               | 14,300,000                                                                                                          | 14,300,000                                                                                      |
| 前年度からの繰越          |                                                                                                                     | 0                                                                                               |
| 実支出額              | 14,260,616                                                                                                          | 11,185,209                                                                                      |
| 翌年度への繰越           | 0                                                                                                                   | 0                                                                                               |
| 未使用額              | 39,384                                                                                                              | 3,114,791                                                                                       |
| 主な使途と額<br>(1) 物品費 | ノート PC 379,600 円（2 台）<br>ビデオカメラ 399,678 円（4 台）                                                                      | ポータブル SSD 129,600 円（2 台）<br>パソコン 199,800 円（1 台）<br>パソコン 354,600 円（1 台）<br>ノート PC 278,800 円（1 台） |
| (2) 人件費・謝金        | 非常勤職員 715,553 円<br>（1 名×6 か月）                                                                                       | 特任准教授 4,943,937 円（1 名）<br>非常勤職員 870,639 円（1 名）                                                  |
| (3) 旅費            | 会合 662,380 円<br>（3 回、延べ 28 名）                                                                                       | 会合 372,615 円<br>（1 回、延べ 7 名）                                                                    |
| (4) その他           | 会議費 315,502 円（3 会合）<br>CiDER 共催シンポジウム開催費<br>2,020,000 円<br>CiDER 共催シンポジウム広告費<br>1,980,000 円<br>文字起こし 120,664 円（2 件） | 調査費 349,994 円<br>会議費 127,200 円（京都大）<br>会議費 138,755 円（東京）<br>文字起こし 799,370 円（6 件）                |

### （研究費を特に効果的に使用した例がある場合、その内容）

CiDER と共に開催したシンポジウムでは、開催費および広告費の半分の支出したが、一般の参加者からの問題意識や課題を得ることができた。また、購入した機材を十分に活用し、対談やシンポジウム、講演を収録し、積極的に PDP を発行した。他にも、日本経済学会との連携によるシンポジウムの開催や、その内容の PDP（Policy Discussion Paper）化、『経済セミナー』、『アステインオン』で掲載した。また、CiDER のオンライン講座（SpringX）での講義の PDP 化なども行った。

# 研究成果報告

|       |                            |
|-------|----------------------------|
| 年度    | 2023 年度                    |
| 配分機関名 | 独立行政法人日本学術振興会              |
| 制度名   | 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業   |
| 事業名   | 学術知共創プログラム                 |
| 公募名   | 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業   |
| 課題ID  | 23812864                   |
| 課題名   | コロナ危機から視る政策形成過程における専門家のあり方 |

【研究論文】

|         |                  |               |        |               |   |
|---------|------------------|---------------|--------|---------------|---|
| 種別      | 研究論文(その他学術会議資料等) | 発行年           | 2024 年 | 査読有無          | 無 |
| 論文課題    | コロナ危機における学会の対応   |               |        |               |   |
| 著者名     | 岩本康志、大竹文雄        |               |        |               |   |
| 雑誌名     | CiDER-PDP05      |               |        |               |   |
| 巻       |                  | 掲載ページ<br>(開始) |        | 掲載ページ<br>(終了) |   |
| 掲載論文DOI |                  |               |        |               |   |
| その他識別番号 |                  |               |        |               |   |
| 掲載確定    |                  | 国際共著          |        | オープン<br>アクセス  |   |
| 備考      |                  |               |        |               |   |

**【研究論文】**

|         |                   |               |        |               |   |
|---------|-------------------|---------------|--------|---------------|---|
| 種別      | 研究論文(その他学術会議資料等)  | 発行年           | 2024 年 | 査読有無          | 無 |
| 論文課題    | コロナ危機における法とそれらの運用 |               |        |               |   |
| 著者名     | 岩本康志、齋藤智也、大竹文雄    |               |        |               |   |
| 雑誌名     | CiDER-PDP06       |               |        |               |   |
| 巻       |                   | 掲載ページ<br>(開始) |        | 掲載ページ<br>(終了) |   |
| 掲載論文DOI |                   |               |        |               |   |
| その他識別番号 |                   |               |        |               |   |
| 掲載確定    |                   | 国際共著          |        | オープン<br>アクセス  |   |
| 備考      |                   |               |        |               |   |

**【WEB】**

|      |                                                                                                     |   |   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|
| 種別   | WEB                                                                                                 | — | — |
| タイトル | 大阪大学感染症総合教育研究拠点                                                                                     |   |   |
| URL  | <a href="https://www.cider.osaka-u.ac.jp/index.html">https://www.cider.osaka-u.ac.jp/index.html</a> |   |   |
| 備考   | 成果発表先として、DPやPDPはHP内に設置されています                                                                        |   |   |

## 【その他の業績】

その他の業績  
(自由記述欄)

著作物 (計3件)

- ①大竹文雄「新型コロナ リスク判断 価値観次第」『読売新聞：地球を読む』2023年9月8日
- ②Fumio Ohtake, "COVID risk evaluation now up to individuals", The Japan News, Insights in to the World, 2023.9.8
- ③大竹文雄・笠井信輔「コロナ禍でのがん闘病から見た社会の病理」2023年10月号

本事業で主催したシンポジウム等 (計6件)

- ① 第1回・キックオフプロジェクト会議、大阪大学中之島センター (ハイブリッド開催)、2023.9.18 参加者 (研究者16)
- ② 第2回プロジェクト会議、AP東京丸の内 (ハイブリッド開催)、参加者 (研究者16) 2024.2.2
- ③ CiDERシンポジウム、東京よみうり大手町ホール大ホール、2024.2.3、参加者 (現地257・オンライン924) 【共催】
- ④ Kyoto Workshop on the ethical issues at the end of life in Korea and Japan、京都大学高井ホール (ハイブリッド開催)、2024.2.22
- ⑤ Kyoto Workshop on the Clinical Ethics Conclusion in Korea and Japan、京都大学文学研究科 (ハイブリッド開催)、2024.2.28
- ⑥ 第1回カンファレンス、AP大阪梅田東 (ハイブリッド開催)、2024.3.4、参加者 (研究者20、実務者1)

研究成果報告

|       |                            |
|-------|----------------------------|
| 年度    | 2024 年度                    |
| 配分機関名 | 独立行政法人日本学術振興会              |
| 制度名   | 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業   |
| 事業名   | 学術知共創プログラム                 |
| 公募名   | 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業   |
| 課題ID  | 23812864                   |
| 課題名   | コロナ危機から視る政策形成過程における専門家のあり方 |



# 【研究論文】

|         |                                                                                                                                 |               |        |               |                       |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------|---------------|-----------------------|
| 種別      | 研究論文(大学, 研究機関紀要)                                                                                                                | 発行年           | 2025 年 | 査読有無          | 無                     |
| 論文課題    | コロナ禍における科学的助言の態様と人文学・社会科学の貢献 テーマ2: 人文・社会科学の貢献可能性 -RISTEX「政策のための科学」×JSPS「コロナ危機から見る政策形成過程における専門家のあり方」連携企画-                        |               |        |               |                       |
| 著者名     | 小出直史, 黒河昭雄, 山縣然太郎, 森田朗, 大竹文雄                                                                                                    |               |        |               |                       |
| 雑誌名     | CiDER-PDP                                                                                                                       |               |        |               |                       |
| 巻       |                                                                                                                                 | 掲載ページ<br>(開始) |        | 掲載ページ<br>(終了) |                       |
| 掲載論文DOI |                                                                                                                                 |               |        |               |                       |
| その他識別番号 |                                                                                                                                 |               |        |               |                       |
| 掲載確定    | <input type="radio"/>                                                                                                           | 国際共著          |        | オープン<br>アクセス  | <input type="radio"/> |
| 備考      | <a href="https://cdn.cider.osaka-u.ac.jp/2025/03/CiDER-pdp011.pdf">https://cdn.cider.osaka-u.ac.jp/2025/03/CiDER-pdp011.pdf</a> |               |        |               |                       |

# 【研究論文】

|         |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------|---------------|-----------------------|
| 種別      | 研究論文(大学, 研究機関紀要)                                                                                                                                  | 発行年           | 2025 年 | 査読有無          | 無                     |
| 論文課題    | コロナ禍における科学的助言の態様と人文学・社会科学の貢献 テーマ1: コロナ禍をめぐる専門家の貢献と責任 -RISTEX「政策のための科学」×JSPS「コロナ危機から見る政策形成過程における専門家のあり方」連携企画-                                      |               |        |               |                       |
| 著者名     | 小出直史, 黒河昭雄, 山縣然太郎, 小林傳司, 大竹文雄                                                                                                                     |               |        |               |                       |
| 雑誌名     | CiDER-PDP                                                                                                                                         |               |        |               |                       |
| 巻       |                                                                                                                                                   | 掲載ページ<br>(開始) |        | 掲載ページ<br>(終了) |                       |
| 掲載論文DOI |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
| その他識別番号 |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
| 掲載確定    | <input type="radio"/>                                                                                                                             | 国際共著          |        | オープン<br>アクセス  | <input type="radio"/> |
| 備考      | <a href="https://cdn.cider.osaka-u.ac.jp/2025/01/34u8qWCa-CiDER-pdp010.pdf">https://cdn.cider.osaka-u.ac.jp/2025/01/34u8qWCa-CiDER-pdp010.pdf</a> |               |        |               |                       |

# 【研究論文】

|         |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------|---------------|-----------------------|
| 種別      | 研究論文(大学, 研究機関紀要)                                                                                                                                  | 発行年           | 2025 年 | 査読有無          | 無                     |
| 論文課題    | コロナ危機から見る政策形成過程における専門家のあり方：新型コロナ対策での経済学と人文・社会科学の役割                                                                                                |               |        |               |                       |
| 著者名     | 岩本康志, 磯野真穂, 待鳥聡, 大竹文雄                                                                                                                             |               |        |               |                       |
| 雑誌名     | CiDER-PDP                                                                                                                                         |               |        |               |                       |
| 巻       |                                                                                                                                                   | 掲載ページ<br>(開始) |        | 掲載ページ<br>(終了) |                       |
| 掲載論文DOI |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
| その他識別番号 |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
| 掲載確定    | <input type="radio"/>                                                                                                                             | 国際共著          |        | オープン<br>アクセス  | <input type="radio"/> |
| 備考      | <a href="https://cdn.cider.osaka-u.ac.jp/2025/01/FbegLVzb-CiDER-pdp009.pdf">https://cdn.cider.osaka-u.ac.jp/2025/01/FbegLVzb-CiDER-pdp009.pdf</a> |               |        |               |                       |

# 【研究論文】

|         |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------|---------------|-----------------------|
| 種別      | 研究論文(大学, 研究機関紀要)                                                                                                                                  | 発行年           | 2024 年 | 査読有無          | 無                     |
| 論文課題    | コロナ危機から見る政策形成過程における専門家のあり方：感染症対策における最新技術動向-感染状況の把握と下水サーベイランスの現在地                                                                                  |               |        |               |                       |
| 著者名     | 北島正章, 元岡大祐, 小出直史, 村上道夫                                                                                                                            |               |        |               |                       |
| 雑誌名     | CiDER-PDP                                                                                                                                         |               |        |               |                       |
| 巻       |                                                                                                                                                   | 掲載ページ<br>(開始) |        | 掲載ページ<br>(終了) |                       |
| 掲載論文DOI |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
| その他識別番号 |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
| 掲載確定    | <input type="radio"/>                                                                                                                             | 国際共著          |        | オープン<br>アクセス  | <input type="radio"/> |
| 備考      | <a href="https://cdn.cider.osaka-u.ac.jp/2025/01/modDgodL-CiDER-pdp008.pdf">https://cdn.cider.osaka-u.ac.jp/2025/01/modDgodL-CiDER-pdp008.pdf</a> |               |        |               |                       |

# 【研究論文】

|         |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------|---------------|-----------------------|
| 種別      | 研究論文(大学, 研究機関紀要)                                                                                                                                  | 発行年           | 2024 年 | 査読有無          | 無                     |
| 論文課題    | コロナ危機から見る政策形成過程における専門家のあり方：新型コロナウイルス感染症による危機対応における初動機の振り返り                                                                                        |               |        |               |                       |
| 著者名     | 藤井睦子, 小出直史                                                                                                                                        |               |        |               |                       |
| 雑誌名     | CiDER-PDP                                                                                                                                         |               |        |               |                       |
| 巻       |                                                                                                                                                   | 掲載ページ<br>(開始) |        | 掲載ページ<br>(終了) |                       |
| 掲載論文DOI |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
| その他識別番号 |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
| 掲載確定    | <input type="radio"/>                                                                                                                             | 国際共著          |        | オープン<br>アクセス  | <input type="radio"/> |
| 備考      | <a href="https://cdn.cider.osaka-u.ac.jp/2025/01/UJlt4FV9-CiDER-pdp007.pdf">https://cdn.cider.osaka-u.ac.jp/2025/01/UJlt4FV9-CiDER-pdp007.pdf</a> |               |        |               |                       |

# 【研究論文】

| 種別      | 研究論文(学術雑誌)                                                                                                                                  | 発行年           | 2025 年 | 査読有無          | 有                     |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------|---------------|-----------------------|
| 論文課題    | Perceptions and responses to COVID-19 through wastewater surveillance information and online search behavior: A randomized controlled trial |               |        |               |                       |
| 著者名     | Michio Murakami, Shuhei Nomura, Hiroki Ando, Masaaki Kitajima                                                                               |               |        |               |                       |
| 雑誌名     | International Journal of Disaster Risk Reduction                                                                                            |               |        |               |                       |
| 巻       | 118                                                                                                                                         | 掲載ページ<br>(開始) | 105224 | 掲載ページ<br>(終了) |                       |
| 掲載論文DOI | 10.1016/j.ijdr.2025.105224                                                                                                                  |               |        |               |                       |
| その他識別番号 |                                                                                                                                             |               |        |               |                       |
| 掲載確定    | <input type="radio"/>                                                                                                                       | 国際共著          |        | オープン<br>アクセス  | <input type="radio"/> |
| 備考      |                                                                                                                                             |               |        |               |                       |

# 【研究論文】

|         |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------|---------------|-----------------------|
| 種別      | 研究論文(学術雑誌)                                                                                                                                        | 発行年           | 2025 年 | 査読有無          | 有                     |
| 論文課題    | Effects of political treatments during the COVID-19 pandemic on infection-prevention behavior and risk perception: a panel data analysis of Japan |               |        |               |                       |
| 著者名     | Yamagata, M., Murakami M., Miura A.                                                                                                               |               |        |               |                       |
| 雑誌名     | International Journal of Disaster Risk Reduction                                                                                                  |               |        |               |                       |
| 巻       | 117                                                                                                                                               | 掲載ページ<br>(開始) | 105201 | 掲載ページ<br>(終了) |                       |
| 掲載論文DOI | 10.1016/j.ijdrr.2025.105201                                                                                                                       |               |        |               |                       |
| その他識別番号 |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |
| 掲載確定    | <input type="radio"/>                                                                                                                             | 国際共著          |        | オープン<br>アクセス  | <input type="radio"/> |
| 備考      |                                                                                                                                                   |               |        |               |                       |

【研究論文】

|         |                                                                                                            |               |        |               |                       |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------|---------------|-----------------------|
| 種別      | 研究論文(学術雑誌)                                                                                                 | 発行年           | 2024 年 | 査読有無          | 有                     |
| 論文課題    | Three years of COVID-19-related school restrictions and mental health of children and adolescents in Japan |               |        |               |                       |
| 著者名     | Reo Takaku, Naohisa Syobako, Taisuke Nakata                                                                |               |        |               |                       |
| 雑誌名     | Scientific Reports                                                                                         |               |        |               |                       |
| 巻       | 14                                                                                                         | 掲載ページ<br>(開始) | 16707  | 掲載ページ<br>(終了) |                       |
| 掲載論文DOI | 10.1038/s41598-024-67138-y                                                                                 |               |        |               |                       |
| その他識別番号 |                                                                                                            |               |        |               |                       |
| 掲載確定    | <input type="radio"/>                                                                                      | 国際共著          |        | オープン<br>アクセス  | <input type="radio"/> |
| 備考      |                                                                                                            |               |        |               |                       |



【研究論文】

|         |                                                                                                               |               |     |               |                       |   |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|-----|---------------|-----------------------|---|
| 種別      | 研究論文(学術雑誌)                                                                                                    |               | 発行年 | 2024 年        | 査読有無                  | 有 |
| 論文課題    | Who trusts in scientific research? Cross-national surveys of Japan, the United Kingdom, and the United States |               |     |               |                       |   |
| 著者名     | Miura, A., Yamagata, M., Higashijima, J., Kobayashi, T. and Nakamura, M.                                      |               |     |               |                       |   |
| 雑誌名     | Journal of science Communication                                                                              |               |     |               |                       |   |
| 巻       | 23                                                                                                            | 掲載ページ<br>(開始) | A23 | 掲載ページ<br>(終了) |                       |   |
| 掲載論文DOI | 10.22323/2.23080203                                                                                           |               |     |               |                       |   |
| その他識別番号 |                                                                                                               |               |     |               |                       |   |
| 掲載確定    | <input type="radio"/>                                                                                         | 国際共著          |     | オープン<br>アクセス  | <input type="radio"/> |   |
| 備考      |                                                                                                               |               |     |               |                       |   |

【研究論文】

|         |                                                                                             |               |        |               |                       |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------|---------------|-----------------------|
| 種別      | 研究論文(学術雑誌)                                                                                  | 発行年           | 2024 年 | 査読有無          | 有                     |
| 論文課題    | Behind the Mask: Analyzing the Dual Influence of Social Norms on Pandemic Behavior in Japan |               |        |               |                       |
| 著者名     | Miura,A., Murayama, A., & Kitamura                                                          |               |        |               |                       |
| 雑誌名     | Japanese Psychological Research                                                             |               |        |               |                       |
| 巻       |                                                                                             | 掲載ページ<br>(開始) |        | 掲載ページ<br>(終了) |                       |
| 掲載論文DOI | 10.1111/jpr.12520                                                                           |               |        |               |                       |
| その他識別番号 |                                                                                             |               |        |               |                       |
| 掲載確定    | <input type="radio"/>                                                                       | 国際共著          |        | オープン<br>アクセス  | <input type="radio"/> |
| 備考      |                                                                                             |               |        |               |                       |

**【WEB】**

|      |                                                                                                                                         |   |   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|
| 種別   | WEB                                                                                                                                     | — | — |
| タイトル | JSPS 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 学術知共創プログラム コロナ危機から<br>視る政策形成過程における 専門家のあり方                                                                |   |   |
| URL  | <a href="https://sites.google.com/cider.osaka-u.ac.jp/jsps-gakujututi">https://sites.google.com/cider.osaka-u.ac.jp/jsps-gakujututi</a> |   |   |
| 備考   |                                                                                                                                         |   |   |

【研究データ】

| 種別      |    |    |         |          |    |
|---------|----|----|---------|----------|----|
|         | 公開 | 共有 | 非共有・非公開 | 期限付き公開予定 | 総数 |
| 管理対象データ | 件  | 件  | 1件      | 件        | 1件 |

## 【その他の業績】

その他の業績  
(自由記述欄)

著作物 (計2件)

①佐々木周作・大竹文雄・齋藤智也「行動経済学で「未知のワクチン」に向き合う」、20245.1.15 (日本評論社)

②大竹文雄「感染症対策における日本の経済学 (者)」『アステイオン』101, 23-42, 2024.11.22 (CEメディアハウス)

本事業で主催・共催したシンポジウム等 (計2件)

①PANDEMIC ELSI INTERNATIONAL CONFERENCE、京都大学楽友会館 (ハイブリッド開催)、2025.3.13～15 【共催】

②第3回プロジェクト会議、AP東京丸の内 (ハイブリッド開催)、2025.3.27、参加者：現地10、オンライン16